

会報

No. 6

1985.3.25発行

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9

京都府立図書館内

TEL (075) 771-0069



私の出会った本 「人生論ノート」の救い

加悦町 宝蔵寺住職 小野 泰 昭

大学の受験に失敗して、臥薪嘗胆の日々（といえば聞こえはいいが、実は悶悶の日々）を送っていた浪人中のことである。本堂裏の廊下にあった父の本棚の中に一冊の紙質のよくない本を見附けたのである。

背に人生論ノートと見えた。三木清などという人の名さえ知らなかった頃である。

「どんなに苦しんでゐる病人にも死の瞬間には平和が来ることを目撃した」「深く執着するものがある者は死後自分の帰ってゆくべきところをもっている」。

その頃父と同道して葬儀や中陰、あるいは法事に出かけることに懷疑的だった私に如何なる佛教書よりも明確な回答を与えてくれたことか。

「嫉妬には天真爛漫といふことがない」「嫉妬は平生は考へない人間にも考へさせる」、「嫉妬は自分よりも高い地位にある者、自分よりも幸福な状態にある者に対して起る。だがその差異が絶対的でなく、自分も彼のやうになり得ると考へられることが必要である。……しかも嫉妬は嫉妬される者の位置に自分を高めようとすることなく、むしろ彼を自分の位置に低めようとするのが普通

である。……この点、愛がその本性においてつねにより高いものに憧れるのと異つてゐる」

己れの至らなさを不出来を棚上げて、合格した友人のことを嫉ましく思ったり、ただ自分は不運だったのだと、自分に言い聞かせて、ごまかしたりしていた時のことである。ゴツンと一発食らった感じであったが、よく納得でき、自分の状況を説明されているような気がしたのも事実である。

私のことを名前にこじつけ「ヤスパース」などと呼んでいた父が（父は食う物より書物という人で、母が月末の支払いに難渋していたのをよく憶えている）息子に読ませようとして置いていたのか、あるいは下宿の壁に阿弥陀経や佐藤春夫のサンマの詩を筆で書いて貼っていた次兄が置いておいたものか定かでない。

「旅において出会ふのはつねに自己自身である。自然の中を行く旅においても、我々は絶えず自己自身に出会ふのである。旅は人生のほかにあるのではなく、むしろ人生そのものの姿である」

三木清のすべてがわかる筈もなく人生論ノートが読破できていたわけ

でもないが、一部分でも自分の置かれている状況の中で理解することが出来、自分をみつめ直し、問いなおすことができた喜びは大きかった。不遜な言い方だが哲学がそんなに遠くにある学問でないと感じたのも事実であった。

分担金の値上げについて

かねてから当連絡協議会の分担金について、京都市府市町村法令外負担金等審議会に値上げを申請してきましたところ、左記のとおり申請の一部が十二月二十四日付で認められました。つきましては、新年度の総会にお計らいして、分担金の値上げをお願いいたしたいと思いますので、会務遂行のため、ご理解の上ご協力下さいますようお願いいたします。

市（京都市を除く） 五〇〇〇円→七〇〇〇円
町・村 三〇〇〇円→四〇〇〇円
なお、京都市と京都府については従来の通りです。

●役員の変更

宇治市中央図書館開館にともない当連絡協議会役員（監事）の一部を左記のとおり変更いたしました。

新 五十嵐 一郎
旧 竹中 宏

一泊実務研修会(2/14・15)に参加して

▼図書館に勤務して3年目になりますが、業務内容についてあるいは利用者との対応など日々現実に様々な問題にぶつかるたびに、他の図書館ではどの様に処理しているのだろうか、今もって出来る事はないのだろうかと思うことがしばしばあります。今回実務研修会に参加して他の図書館で抱えている問題、リクエストにどの様に對していくか、自館にない資料をどうするか、児童等の利用者にとどう対応するか、職員配置について、図書購入予算について話し合う機会を得ました。そしてそれは館の規模、所在地により異なるが、抱えている問題は図書館活動の本質に基づいており、それぞれの図書館の活動に将来をとおして関わってくるものでした。府北部の一図書館職員として、いろいろな実例をきき、それを自館の活動の中で生かしていき、またこの様な機会がありましたら、より深く住民に関わった図書館活動のあり方を話し合えるようとり組みをしていきたいと思っています。その意味で、八日市市立図書館長の西田先生のお話しはあらためて自覚させられる感銘のあるものでした。

(福知山市立図書館 塩見 邦夫)

▼図書館に勤めて3年になります。日々の仕事に追われ、アツという間の3年でした。一泊の実務研修も初めてなら、これ程多くの他館の方々と話す機会も初めてでした。まず感じたのは、南部の館どうしの仲の良いことで、横のつながりがあることを、うらやましく思いました。

児童の分科会では、日頃疑問に思っている事を尋ねたり、各館の子供に對しての活動を報告したり、お年寄りに對するサービスまでと、始終和やかな雰囲気でした。話し合いが続きました。館によって貸出・返却の方法も違いますし、かかえている問題も違います。でも図書館員として目指している方向は同じなんだと思いました。この分科会で自分の館のよい点(予約サービス等)を見直したり、もっと親しみのもてる図書館にしていかなければと反省もしました。

この研修に参加して、またこの仕事に對して情熱のある人達に会って、いい刺激をうけました。今後このような研修に、是非多くの方に参加してほしいと思っています。これからは、交流を深め、利用者が読みたい本は必ず読める図書館にしていければと思っています。

(京都市醍醐図書館 松江 陽子)

新規加盟館紹介

このたび、京北町中央公民館と加茂町南加茂台地区公民館が、当協議会に加盟されましたので紹介します。

◆美山町中央公民館図書室

所在地 北桑田郡美山町字島
開室年月 昭和五十七年八月十日
蔵書冊数 七〇〇冊
開館時間 午前九時～午後五時
休館日 日曜日、国民の祝日、土曜日午後

個人貸出 一人三冊

電話 〇七二五五五五五五

当図書室では、より多くの町民に利用してもらうために、ホーム・ヘルパーと提携して、在宅者への図書の配本やリーディングなど、きめ細かいサービスを実施している。

ストーリーテリング講習会を

開催して——八幡市民図書館

八幡市民図書館では、昭和五十九年十一月二十七日、十二月六日、六十年二月五日と三回にわたり、大月ルリ子さんを講師に迎え、ストーリーテリング講習会を開催しました。

参加者数が、のべ百三十名と予想以上の反響で、市民の関心の高さに驚かされました。

ストーリーテリングを学ぶには、わずかに三回と少い講習で、実習や批評会などに十分時間がとれないという不備な点もありましたが、その内

◆南加茂台地区公民館図書室

所在地 相模郡加茂町南加茂台五
一二一三
開室年月 昭和五十八年八月二十七日
蔵書冊数 三、二〇〇冊
開館時間 水曜日 午後一時～五時
土曜日 午前九時～午後五時

個人貸出 一人二冊 二週間
電話 〇七七四七六五五五五

当図書室は、地域住民の協力によって作られ、開室以来の利用状況は盛況である。因に、昨年度の貸出状況は、南加茂台地区の人口二七%が登録し、一人当たり約四冊貸出しをしている。

容は、「ことば」の大切さ、心のこもった生きたことばによって豊かな心の世界は築かれ、その手助けをするのが「おはなし」であるという、ストーリーテリングの本質に重点がおかれ、本当に実りのあるもので、参加いただいた方々にも、まず満足していただけたと思っています。

今後は、今回学んだことがらを、より深めてゆくために、受講者有志の方々とサークル活動を計画中です。また、別の機会に、新たな形で、このような講習会を開いてゆきたいと思っています。

(八幡市立八幡市民図書館 小西 健二)

にゅうす・ニュース・News

そろって昨年11月3日(文化の日)にオープンしました。

◆宇治市中央図書館——市立図書館網をめざして



府立太陽ヶ丘運動公園に隣接する折居台の「宇治市文化センター」(文化会館・中央図書館・歴史資料館・中央公民館の複合施設)内に新館オープンいたしました。それまで市民に親しまれてきた宇治川畔の「宇治市民図書館」は、19年の歩みを閉じ、図書館にその活動を引きつぐことになりました。

館内はワンフロアで、開架室・参考資料室・集会室・点字対面朗読室等を含め、専有面積は1,437㎡です。開館時の蔵書は、購入・移管図書合わせて約50,000冊(移動図書館を除く)で出発しています。蔵書収容能力は130,000冊で、今後は毎年1万冊以上の増加を予定しており、貸出・返却・検索等にコンピューターを導入し、より迅速によりきめ細かいサービスで市民に親しまれる図書館づくりをめざしています。

当面、1.生涯教育にとって有効適切な場。

2.児童の読書要求にこたえる場。

3.市民の調査研究を援助する場。

4.郷土のことはなんでもわかる場。

の4点の目標を掲げ、市民と本との出会いをおい求めるふれ合いの場としての図書館づくりを行ってまいります。

尚、中央図書館は、分館機能を有する中央館として、宇治市図書館網の中核となる施設と位置づけており、移動図書館のベースでもあります。本館・移動図書館、将来の分館計画を含め、図書館網の整備を今後の課題としています。



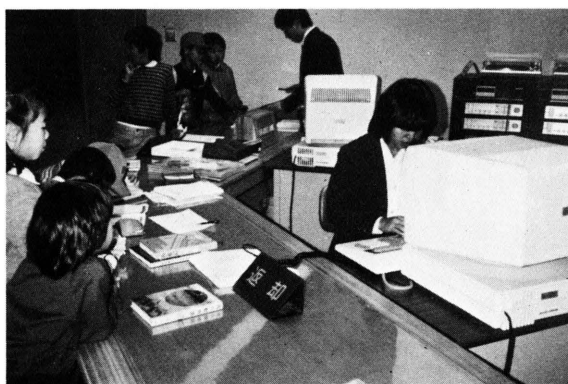
◆向日市立図書館

——市民に好評——登録率20%越える

鉄筋コンクリート造2階建、延床面積1509㎡。向日市文化資料館、京都府埋蔵文化財調査研究センターとの複合施設です。瀟洒な建物に加え、コンピューターを主軸とする現代的な図書館運営は、幸い市民の好評を得て、連日の賑わいをみせています。貸出登録者は2月末現在10,709人、登録率は早くも20%を越えました。開館後4カ月間の貸出状況は、貸出者数25,000人、貸出冊数は開館4カ月で中央公民館図書室での1年間の実績を上回り57,000冊となっています。1日平均では貸出者数290人、貸出冊数660冊となり、日曜日は約3倍の利用があります。この他リクエスト365件、複写400件、リスニングコーナーの利用1005回など、活発な利用があります。

日を追って増える利用に、おおはりきりの毎日です。

(向日市：人口52,000人、面積8km²、開館時蔵書30,000冊、開館：AM10:00～PM6:00、休館：日・祝・毎月末日他、職員6名)



全国読書推進運動協議会から第17回優良読書グループとして、大山崎町読書サークルが表彰され、伝達式が行われました(85¹¹/₁₇)。昭和50年に結成され、月1回の読書会の中で、生き方について語り合うこともあります。

大山崎町読書サークル
優良読書グループとして表彰

▶館長の異動◀

宇治市中央図書館長
新 五十嵐 一郎
旧 竹中 宏

▶新規加盟館長◀

美山町中央公民館長 大棚 浩
南加茂台地区公民館長 北本 嘉延

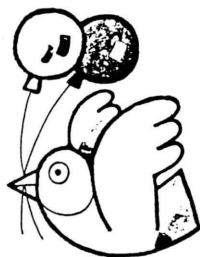
にゅうす・ニュース News

加茂町に図書館が!!

加茂町では、南加茂台地区に公民館図書室が出来た頃から、「町の中心部にも図書館を」と、図書館の建設を検討していましたところ、加茂小学校の旧職員室棟を改造して建設する目途が立ち、文部省に転用の承認を申請しています。

計画によると、二階建て、延べ四百平方メートルで、一階に事務室、一般閲覧室・児童室を、二階に会議室・専門的閲覧室・書庫を設ける予定で、府立図書館からの貸出しを含めて二万冊でオープンしたいとしています。

なお、文部省からの施設転用許可は、三月中に出される予定で、認可が下り次第、約六千万円（改造費三千五百万円、図書・備品費など二千五百万円）の予算化を図り、六年四月オープンを目差している。



まもなく新館オープン!!

―精華町立図書館―

精華町立図書館は、昭和五三年に現在地に移転しましたが、建物の老朽化が進み、現在、町役場隣りに鉄筋二階建ての図書館を新築中です。工事の方は三月中に終了し、四月オープンを目差して準備に迫られています。

新しい図書館は延べ三百三十二平方メートルで、一階に貸出室と書庫、二階に参考室を設ける予定です。

なお、精華町立図書館は、登録率一九パーセント、町民一人当たり貸出冊数五冊、町民一人当たり図書費百三十一円（いずれも昭和五八年度）と、利用が急増しています。

八木町も図書館計画

八木町では、シティ・ホール建設について計画していましたが、同建設検討委員会が、二月二五日、この計画について賛成する最終報告をまとめた。

この計画によると、このシティ・

ホールには、町役場、町民のためのギャラリーホール、図書館、郷土資料展示室などを併設する、鉄筋コンクリート三階建て、延べ四千万平方メートルの建物です。

この中の図書館部分は延べ七五〇平方メートルで、入口を別にしたものを予定しているとのこと、建物の建築は六〇～六一年度の二カ年計画となっています。

図書館振興策を答申

―亀岡市立図書館協議会―

亀岡市立図書館協議会は、一昨年七月、市教育委員会から諮問を受けていた「図書館振興策」について、二月二七日答申しました。

それによると、

①より多くの市民が利用できるように、中学校区ごとに分館（分室）を設置する。

②サービス上の地域差をなくすために、移動図書館を設置する。

③市民の要望に答えられるように蔵書、資料の充実を図り、レファレンスサービスに重点をおく。

④これらのサービスを実施するために必要な専門職員を確保すること。

⑤ビデオテープセレコードなどを充実し、視聴覚ライブラリー機能を拡大すること。

の五点について、早期実現を要望しています。特に、コンピュータ導入による管理の効率化を図るとともに職員の充実についても重点をおいています。

◆研究集会の開催地決まる◆

日本図書館協会主催の全国研究会の開催地と、全国図書館大会の開催日程が決まりました。

また、近畿公共図書館協議会の研究集会の担当館が決まりましたのでお知らせします。

◎全国集会の部

全国図書館大会 於・仙台市

十月三十日～十一月一日

移動図書館部門 於・広島県

整理部門 於・宮崎県

奉仕部門 於・愛媛県

十一月七日～八日

◎近公図の部

移動図書館部門 京都府立図書館

整理部門 大阪府立夕陽丘図書館

参考事務部門 奈良県立図書館

奉仕部門 京都府立総合資料館

なお、開催日程等については、決まり次第「図書館雑誌」等でお知らせいたします。

専門委員会ニユース

◆ 相互協力委員会

当協議会第30回実務研修会において、相互協力委員会の過去2年にわたる逐次刊行物調査の中間報告を行う機会が与えられました。

その概要を少し紹介しますと、逐刊の各館の所蔵タイトル数は、報告32館中27館までが100以内で、雑誌が重要という全国的な動きの中で、その充実が大きな課題です。逐刊の重複度では、報告1990件（府立図書館を除き、府立総合資料館502件を含む）のうち重複は707件にすぎず、1283タイトルが京都府内に所在することが判明しました。

この所在リストは、現在府立図書館で編集中心ですが、これが完成すると、少なくとも所蔵館の紹介が可能となり、相互貸借とはいかないまでも、相互協力に向けての基礎ができることとなります。

また、峰山・和知では、埋蔵文化財関係資料、福知山・木津・和知などでは、郷土に関する資料に対して配慮がなされ、特色ある蔵書構成がみられます。この点は、今後とも各館で充実してほしい分野です。

問題としては、週刊・月刊のポピュラーな雑誌は、1年、2年など短期に廃棄されていること、利用者の要求に接しても「ない」ということで断わっていること、が特に気になります。図書館の発展は、地域住民の要求に何とかしてこたえるという図書館側の努力がその出発点です。

このような状況の中で、他館紹介、借用（相互貸借ではない）の事実が一部みられ、今後相互協力が必要かという問いには、回答16館中14館が「必要」と答えています。

当委員会では、この点に朗い夢を抱いて来年度もがんばっていくつもりです。

◆ 研修研究委員会

昨年の6月29日、参考業務に係る研修として府立総合資料館の見学から出発して、当委員会では5回の実務研修を企画し、この3月12日の亀岡市立図書館で開催した読み聞かせ研修会を最後に本年度の行事を閉じることになりました。

振り返ってみますと、事例発表の中から子供との人間関係作りの大切さを学び、読み聞かせでは、参加者一人一人の癖や未熟な部分に対する指摘を受け、本を読む心構えとして、上手な読み方を考えるのではなく、自分の好きな本を選び聞いて等という態度で望む事をおそわりました。また、一泊研修では図書館を訪れる子供一人一人を大切に作家松岡享子さんの話を交えた児童奉仕養成講座の伝達研修、逐次刊行物の有互協力を通して図書館協力の取組みを学び、夕食後には、欧州各国の図書館事情を視察してこられた京都府立図書館長のスライド映写で、全員遥かなる先進国のすばらしい図書館見学の気分を味わい、その後、分科会では深夜討議を重ね、翌日は疲れも見せず八日市市立図書館 西田館長の「図書館は生きた物体です。だから図書館人は……」というお話を聞きながら、一連の研修を通じてさらに研鑽の必要なことを感じると共に、研修研究委員会に課せられた責任の重さを痛感しました。

なお、研修会開催に当りましては、開催地図書館の絶大なるご協力を賜りました事をご報告すると共に厚く感謝する次第です。

やがて新年度の取組に入ります。よりよい研修会に向けて皆様方のご意見をおまちしております。



京都南部都市広域行政圏 図書館連絡会議が発足

京都府南部5市5町で構成する京都南部都市広域行政圏推進協議会で、図書館連絡会議が昭和60年1月30日発足しました。

当圏域では、増大する広域的な行政需用に対応するため、昭和54年11月に、京都南部都市広域行政圏推進協議会が設立されました。この協議会のもとに、文化行政推進委員会が設置され、京都南部都市広域行政圏文化連環システム施設整備と運営システム形成のとりくみが進められています。図書館連絡会議は、この文化連環システム形成の一環として発足する運びとなったものです。

図書館連絡会議は、圏域内の図書館施設が相互の連携を深め、広域的な事業を実施して、住民の図書館ニーズにこたえていくことを目的とするもので、構成市町の図書館長または図書館担当課長等で組織し、図書館活動の振興、図書館情報の交換、図書館相互協力等の事業にとりくむこととなります。

図書館連絡会議構成市町は次のとおりです。（◎は会長・事務局、○は副会長）宇治市、城陽市、八幡市、◎向日市、長岡京市、宇治田原町、井手町、○田辺町、久御山町、大山崎町

■館種を超えた研修会を

三月九日、日本図書館協会個人会員との交流会が、日本図書館協会との共催で京都社会福祉会館で開かれました。

十三年ぶりに館種を超えた図書館等職員三十名が集まった交流会では、これからは町村立図書館の振興が予想されるとともに、ニューメディアの時代にふさわしく、機械化による相互協力が始まっているという館界の動きを、日図協事務局の井上学氏から報告を受け、各館種の方から現状と課題について話していただきました。

そのあと、この会の今後のあり方



等を協議した結果、次の点について確認し、盛会裡に終わりました。

- ①当面は、当協議会が主導で館種を超えた研修会や交流会を開催する。
- ②すべての図書館や図書館員が日図協の会員になるように働きかける。
- ③当面各館種ごとに組織化し、将来それらを一本化した「京都図書館協会」の再構築を目差す。

■図書館計画着々と進行―京都市

六十年秋開館予定の、地域図書館としては十番目の向島図書館が、向島ニュータウン（伏見区向島二の九町）に設置されます。一行政区一館を原則に地域図書館の建設を進めてきましたが、伏見区は地理的条件から二館必要としており、醍醐地区にすでに一館を開設しています。

向島図書館は地域カルチャーセンターの一階に入居を予定しており、（五七六㎡）開館時の蔵書は一万五千冊を予定しています。（六十年年度予算…開設費二千八百万円）

尚、九番目の地域館として西京図書館（仮称）が西京区山田大吉見町二〇の大吉見公園西隣に建設されます。

さらに、六十二年完成を予定に、洛西ニュータウンにも図書館が建設されることになっており、京都市の図書館計画は着々と進んでいるようです。

■連絡協力車、試験的運行される

―京都府立図書館

京都府立図書館では、かねてから市町立図書館等より要望が出されていた、連絡協力車の運行について検討していましたが、試験的運行として昨年十二月から開始され、六十年度も運行される予定です。

運行計画によると、各図書館等との資料の相互貸借、情報交換、技術協力、資料の収集などを目的とし、乙訓地域より南部の図書館をAコース、Bコースの二コースに分けて、原則として各コース月一回巡回することになっています。

十二月から二月まで延三回運行されましたが、市町村から出された主な要望や意見は次のとおりでした。

- 月一回の周期を二週に一回にしてほしい。
- コース内を巡回する図書館の順序をその都度変えてほしい。
- 試験的運行でなく本運行にしてほしい。
- 開館の資料運搬や連絡が出来る助かる。

●府立図書館の蔵書が少ないため、他府県から借りることがあるので、府立図書館の充実を図ってほしい。なお、二月までに六三一冊の資料が相互貸借や寄贈などにより運搬されました。

■長岡京市、図書館設計費計上!!

長岡京市は二月二五日、昭和六十年年度予算案を発表しましたが、その中で市立図書館設計費として、二二一万円を計上しました。予定地は、現中央公民館用地周辺の一萬一千㎡（天神四丁目）で、この敷地内に府立文化会館、新中央公民館、図書館の三館が建設される予定です。図書館は二階建て（一部三階建て）二千㎡の予定です。地理的には、市街地のほぼ中央に位置し、半径一km範囲内に市の人口の約四十%、半径一・五km以内に六五%が住み、阪急長岡天神駅まで約四百m、国鉄神足駅までは一・三kmと徒歩圏内です。

●編集だより●

●各市町村の図書館建設の動きが活発になってきました。特に南部地域で、公民館図書室が図書館へ代わっていくのが目立ちます。

●事務局では、北部地域からのニュースを心待ちにしています。

☆本紙に関する御意見・御感想はもとより、各館のニュース、行事等の案内、写真、新聞記事（コピー可）等がありましたら、ぜひお寄せ下さい。